



# Information6



今回は肥満傾向の子・加齢の子に多い病気で

合併症を起こしやすい**糖尿病**についてのお話！

**糖尿病**とは

膵臓から出ている**インスリン**が何かの理由で  
**不足・作用**しなくなることによって、エネルギー源であるブドウ糖を  
細胞内に取り込めなくなり、様々な不調を引き起こす病気…

糖尿病には**2種類**□□

## I 型

**犬**に多い

インスリン不足のため  
基本は**インスリン投与が必要**  
原因として考えられるのは  
ウイルス感染・中毒症・膵炎

## II 型

**猫**に多い

インスリンが作用をしないため  
糖を上手に取り入れなくなり起こる  
**インスリンの投与が必要としない**  
ことが多い

人の9割はII型



シュナウザー  
ダックスフンド  
プードル



猫

気をつけたい子

肥満



8歳前後の  
高齢



## 治療方法

**インスリン投与**：自宅で決まった回数と量を投与します。

(副作用で命に関わる低血糖を起こす場合があるため注意が必要です)

**食事療法**：脂肪量が少なく、血糖が上がりづらいフードを与えます。

**体重コントロール**：肥満によってインスリン感受性が低下している場合は、  
体重を落とすことによってインスリンの必要量が  
少なくなる可能性があります。

## こんな症状はありませんか？

- ◆ よく水を飲む・おしっこの回数が増えて量が多い  
→糖と一緒に水分が尿となり排出してしまっている
- ◆ 食欲が増えるのに体重が減る  
→糖を貯えたり、エネルギーを効率的に利用ができなくなっている
- ◆ かかとを地面につけたまま歩く  
→猫が神経症状を起こす
- ◆ 目が白くなる  
→白内障 (犬に多い)
- ◆ 食欲が減る  
→病気が進行している



**体重管理**をして太りすぎないようにしましょう！！

毎日運動をさせることも重要です。**ストレス**にならないような環境を整え、

**血液検査・尿検査**で早期発見ができることもあります。

(猫は興奮・緊張・ストレスを感じると血糖が上がりやすいので、  
検査ではわからないこともあります。)

